

第4回「協働のまちづくり部会」会議録

日時：平成17年1月30日（日）

午前10時55分～午後零時15分

場所：市役所7階行政委員会室

出席委員

- 1号委員 田中喜佳、柳田吉範
2号委員（各種団体） 芝本清一、常石宜子
2号委員（公募） 太田寿忠、木之下純子、白木直子、村上いづ美、横谷卓也
3号委員 久隆浩（部会長）、田中晃代（副部会長）
4号委員 神田経治、藤進

欠席委員

- 2号委員（各種団体） 溝端繁

事務局

企画総務部企画経営室企画グループ主幹：中野隆夫

企画総務部企画経営室企画グループ：小池悟史

㈱日本総合研究所

太田康嗣

【中野企画グループ主幹】

それでは、協働のまちづくり部会の審議をお願いしたいと思います。本日の部会におきまして、溝端委員の方、お見えになっておりませんが、始めさせていただきたく思います。それでは、久部会長の方をお願いしたいと思います。

【久部会長】

それでは、本格的な議論に入って参りたいと思います。この部屋は非常に上等なのはいいのですが、椅子が大きいので少し距離がいつもよりもありますが、頑張ってお声を大きくお願いをしたいと思います。

それでは、全体で構想の素案の説明をしていただきました。先ほど、福井先生の方からもありましたけれども、あまり全体で議論をしてしまいますと、一部の方々しか喋れなくなりますので、小さく分けて、全体について議論をさせていただきたいということです。ですから、我々の部会に与えられたテーマだけではなくて、全体的なお話を今日はさせていただきたく思っておりますので、よろしく申し上げます。出来ましたら11時50分ぐらいまで議論をさせていただいて、あと、少し、日程調整、時間の調整がご

ざいますので、12時を目途に終了させていただこうと思っております。

それでは、どういたしましょう。順番に行きましょうか、それとも、全体的なお話をさせていただきますでしょうか。入りやすいところで、全体で行かせていただきますでしょうか。それでは、ご質問でも結構です。ご意見でも結構です、「もう少しこの辺りを聞いてみたい」とか、あるいは、「こういうことをもう少し盛り込んでいただきたい」とか、「こう変えていただければ」というようなお話がございましたら、承りたいと思いますが。いかがでございましょうか。

何もないと、私とか事務局は非常に楽なのですが、このまま素案を取ったらいいいということになりますが、いかがでしょうか。ちょっと気になる部分とか。

先ほど、人口の問題を指摘されていましたが、その辺りはどうでしょう、今の書きぶりでもよろしいでしょうか、それとも、もう少し変えた方がよろしいでしょうか。いかがでしょうか。この辺りは、この書きぶりで大体行けそうかなということでしょうか。

先ほど、農野先生の方からも、少し説明をさせていただきましたけれども、一応、我々、事務局側と部会長、副部会長で、皆様のご意見を踏まえて素案を作るときに、人口の問題というのはかなり集中的な議論になりました。先生方の中でも、色々なご意見があったのですが、想定人口をいくら想定してみても、そうなったためしがないのです、はっきり申し上げまして。今までの、第1次総合計画、第2次総合計画、第3次総合計画も全部そうなのです。例えば、例えがいいのかどうか分かりませんが、「私の年収が10年後に1000万円になります」とか、「なりたい」と書いても、そうはならないわけなのです。それよりも、一応、目標は目標として持っておくだけでも、年次ごとに、あるいはタイミングごとに、どうなっているかということ、きちんと把握させていただいて、その時点修正という形で、「ちょっと財政が落ちてきたな」とか、「人口が減ってきたな」とか、そうしたら、増やす努力もしないといけない。あるいは、このぎりぎりの収入の中でどういうことが出来るのか、あるいは、先ほど、私が申し上げましたように、お金が足りなければ市民の皆様にご協力を仰ぐとか、他の方法で実現をするような形に持っていきたい。そういう形で、10年間、1つの目標を追い続けるのではなくて、少しずつ、状況を皆で確認させてもらって、その時点ごとに、やれること、あるいは、やれる方法というのを考えていくような仕組みをしっかりとつくっておきましょうと。そういうことの方を重点的に、今回は書かせていただきたいなということで、そういうことの反映として、人口の方は、今までより、バシッと数値を出すのではなくて、少し幅を持たせた想定の方という形で書かせて頂いたというのが補足説明なのですが、逆に言いますと、チェックをすると、その時点ごとに考えていく仕組みをいかにつくっていくかということ、きちんと書き込まないといけないし、それを、皆さんも一緒につくってきたわけですから、時点ごとに、皆さんのチェック、評価を盛り込めるような形で考えていかなければいけないのではないかなと思うのです。その辺りでどうでしょ

う。

【木之下委員】

人口という部分についてはこれでいいのかなと私としては思っています。それからあと、11 ページの辺りで「協働のまちづくり」ということで、私達が討論したところが活かされていたのでよかったなと今考えております。

そこらあたりで、「協働のまちづくり」が第3の理念ということで、きちんとうたわれたのがいいことかなと思いました。それから、先ほど、全体部会の時に、岩本委員さんの方から質問がありましたように、それで説明していただいたので、市庁舎の中でもそれぞれ第4次総合計画に向けて、職員の方々が色々と審議して下さってこの計画に参画して下さっているということが、説明を受けて私達はよくわかったと思うのですね。でも、こういうことが、多くの市民の人達にすれば見えてこないということで、それがすごくあれなので、今後そういうことが見えやすい形というのを、もちろん職員がこういうことを、すごくやってることはやってますよということが見えるような仕組みが必要なのかなと、改めて今日は思いました。

【久部会長】

ありがとうございます。それはずっと白木さんが拘っておられることで、ささやかな声がすぐに届けられるような形ということで、それをいかにこの10年でもっともっと充実させていくかということと重なってくる話ではないかなと思うのですけれどもね。いかがでしょうか。

【常石委員】

まず、人口のところなのですけれども、これは本当に、一市民としてのレベルとしては、11万人を想定されたとしても、11万人で考えていくということに、非常に心寂しいものを感じるのです。やはり、ここ河内長野の住民である以上は、その線ではなくて、その上を目指すような、人口であっても何であってもなんですが、意識の問題だと思うのです。そこで11万人が想定されたら11万人という捉え方ではなくて、やはり、せめてここで12万人というところへいくと、私としてはやはりそうであるべきだと思うのです。まず、人口問題としては、市民としての捉え方であったら、長野はそうあってほしいと、その方が心強いという風に、まず、感じます。

それから、先ほど木之下さんも言われた、「協働のまちづくり」の最後のところで、「住民から住民へのサービス」という提供の仕組みというのが必要であると、ここではこれだけの文章であるのですけれども、これの内容、中身というものについて、もう少し議論が深まればいいなと。一体それはどういうものを指して、どういうところを求めているのか、もう少し、この第4次では、そこが出てくるといいなと思います。

【久部会長】

ありがとうございます。後半部分でそういう話もさせていただこうかと思ったのですが、基本計画まで私達は、一応立ち入らないということにはなっているのですけれども、この基本構想のレベルで、この書きぶりでいいよということで、皆さんに一応ご承認いただければ、少し時間があれば、ここに書いてあることをどういう施策とか、どういうことで実現してほしいかという話も、少し時間の残されたところで議論させてもらって、基本計画に反映していただければいい部分が出てくればなという気はしていたので。ちょっと最初に、基本構想の書きぶりを確認させていただいた後で、先ほど常石さんから投げ掛けていただいた、もう少し具体的に考えようということもさせていただけるかと思うのですが。

基本構想の書きぶりはどうでしょうか、皆さん、他のところは。うちの部会では、皆さんは、これで基本構想の書きぶりは、ご了承いただいたということにさせていただきますでしょうか。

【柳田委員】

文章の中で、3ページの「ほぼ充実しつつある都市基盤」の、1番目の「都市基盤の充実に努めてきました」の次の書き出しで、「公共下水道などは整備が十分であるとは言えないものの、水洗化率も86%を超えるなど、基本的な都市基盤はほぼ整っていると言えます」と、一番上と下と、何かこう、整合性がないような気が、文章を見たときにね。

もう1つは、ここで言う水洗化率86%、「下水の整備が十分でないよ」と。しかし、「86%いっていますよ」と。86というのは高い数字、100が当然完全ですからね、その関係からいくと、どうも文章づらがひっかかるのです。おかしいのではないかと。

【久部会長】

少し誤解を招きそう、あるいは、もう少しきちんと説明しないと内容がわからないというご意見ですね。

【柳田委員】

それから、「道路やら、文化施設などやってきましたよ」と言って、「公共下水が悪いよ」といいながら、都市基盤が整っているという、文章が長いというのか。

【久部会長】

どうでしょう、その辺りは。

【中野企画グループ主幹】

確かに本市の場合、公共下水道の整備につきましては、下流域の方から整備が進むという流れの中で、公共下水道の整備につきましては上流域ということで、若干遅れていると。

【柳田委員】

それはわかります。

【中野企画グループ主幹】

そういった中での、市民生活を支える都市基盤について、ある一定の整備が整ってきていると言うことをここでは書きたいという思いで。

【柳田委員】

すると、この「水洗化率 86%」というこの文章が、公共下水道の計画区域内がありますね、全体の市の状況がありますね、そういう意味から行くと、86%の水洗化率というのは高いわけですね、100が一番いいのですから。86もいっていると思うけれど、この86というのは 総人口からするとそんな関係ではないわけです。いかにもここで、ものすごくやっているような雰囲気の記事との流れが、ちょっと僕は。

【久部会長】

では、文章をちょっと整理させていただくということで、かなりわかりやすくなるかなと思うのですが、ちょっと乱暴に言わせていただいた方がわかりやすいと思うのですが、多分、皆さんの生活がとっても困っているというような状況にはないと。だから、そこそこ生活が出来るという意味では、都市基盤は充実してきたと。けれども、更に快適な生活を送ろうとした時に、まだまだ不十分なところも、一部ではあるけれども、あるのだということだと思っております。下水道がわざわざ出てきているのには裏話がありまして、行政職員さんはわかっていると思うのですが、一応ここであらうとおかないと、これからの下水道整備に対しては、まだまだ投資が必要なのです。これでもう十分だと言われてしまうと、今いってない地域とか、いっていない家庭は「もうええんや」という話になりかねないのです。だからここに、「まだまだ下水道設備は充実させないといけないのです」と書いておかないと、今後、下水道整備に対する重点的な投資というのが出来ないという思惑もあって。わざわざ下水道整備が表に出てきてしまうというところで、柳田さんがおっしゃるように、他の充実していると言う割には、下水道だけ重点的に書いているのではないかというようなイメージになるのではないかと思います。

【藤委員】

最初の文章は「下水道の整備が十分ではない」と書いてあるのですよ。実は、私は策定委員会の方で言いまして、「おかしい」と。何がおかしいかというと、ここで書いている公共下水道というのは狭山処理場へ行って、そこまで行って処理していることを言うのです。ところが、各団地はコミュニティプラントといいまして、団地で処理しているのです。処理水がそのまま天見川とか加賀田川とか石川へ流れていくのです。その分も入れて、要するに、家の中に住んでいる人が、自分の所は水洗化ですと言うのは、下水道ではないのですよ。でも、水洗化になっている方については、既に市民の86%の方の家が水洗化になっているのです。ところが、公共下水道というのは40%しかないのです。だから最初に、公共下水道の整備が遅れているというのは、40%だから非常に遅れていると。しかし、「それだけ本当に遅れているのですか」というと、実はそうではないのですと。家の中ではちゃんと水洗化出来ていますからということで、ほぼ大体出来ているけれども、しかし、まだ公共下水道につなぐためには、今、部会長がおっしゃった、少しお金がかかりますよという意味もですね、ちょっと書き込んでいますので、そこだけちょっと認識していただいたらいいのかなと思って説明させてもらったのですけれども。

【久部会長】

ちょっとその、先ほど、何度もお話していますように、書きぶりをもう少しわかりやすいように。

【柳田委員】

水洗化率をわざわざここで入れないといけないかということに引っかかっているだけです。

【久部会長】

しかし、恐らく、これは10年間で。

【柳田委員】

「整ってないけれども、片方ではこれだけ出来てまっせ」という言い方が、ちょっと引っかかります。

【久部会長】

私も今、大学で社会環境工学科というところで教えていて、自分自身も大学の時、環境工学科を出ていますので。環境問題をずっと30年ぐらい追いかけているわけなのですが、これも個人的意見ですが、公共下水道頼みにするかどうかというのは、ちょっと個人的には疑問があるのです。具体的には、福岡県の久山町というところでは、もう10年ほど前から、大規模な公共下水道の整備を降りたのです。一旦、建設省に「や

ります」と言っていたのですけれども、どう考えてもムダだと。つまり、久山町というのは、人口が点在して住んでおられるわけなのです。そこへ大きなパイプを引いてきて、一斉に1つの処理場まで運ばないといけない。それは非常にムダだということで、先ほど藤さんがおっしゃったように、それぞれの集落ごとに小さな処理場をつくって、そこまで流してきて、そのまま川に流しましょうよというような形に変えたのです。その方が、久山町のためになると判断されたのです。建設省にはかなり嫌味を言われたらしいのですけれども、「一旦手を挙げておいて下ろすとは何事か」と言われたらしいのですけれども、思い切ってそれに変えたと。基本的に、どのようなやり方でも、水をきれいにして川に返せばいいわけです。今までは、それを全部大きな川に集めてきて、最後の狭山できれいに流していたわけですが、各町々で小さな処理場をつくって、そこで流していてもいいし、もっと極端に言えば、それぞれのお宅できれいにして、溝とか、あるいは小川に返していただくことでもいいわけです。私は基本的に、そちらの方がいいと思っていますのですけれども。でも、何故それをしなかったかというのは、ちょっと話が脱線しますけれども、2つの理由があって、1つは、今までは下水処理の専門技術者の数が足りなかった。だから色々な所に下水処理場をつくってしまうと、それを維持管理する人が足りないので、大きな所をつくって、そこに重点的に専門家を配置していったほうが良かったので、そうしていたのです。でも何十年も、我々のように社会環境工学科の卒業生がいっぱい出てくるわけですから、もういくつも出来ても、ちゃんと一から出来るような専門家が育っているということがあります。もう1つは、個人個人にお任せすると、いい人もいい加減な人もいるということなのです。ですから、行政が責任を持って1つの下水処理場に集めてきて、ここで責任を持ってきれいにしてお返しする方が、「どんなにいい加減な人でも、もう行政が責任を持ちますがな」と言えるわけです。個別浄化槽にすると、皆さんのように意識の高い方は浄化槽の維持管理をきちんとしてくれて、いつもきれいな水をお宅から流すのですけれども、いい加減な人と浄化槽をつけても、メンテナンスが悪ければ、そこからきれいな水が出てこないということになるのです、そのまま流れ出てしまうということが出てくるのです。そうしたら、「誰が責任を持ってくれるのですか」となった時に、一人ひとりに任せてはおけないということで、まだまだ1つの所でやる方がいいという判断もあるわけです。そのような色々な難しい判断の中で、公共下水道がいいのか、個別浄化槽とか小さなプラントがいいのかという判断は、今後継続的に、私は個人的にやっていく必要があるだろうと思っていて、そういう意味では、46%の公共下水道の整備率が低いというのは、色々な判断が出来るし、これから本当に長いパイプを各ご近所まで引いて行って、それで一斉に処理した方がいいのかどうかというのは、10年間のスパンよりも、もっと長いスパンの中で考えていく必要があるのだらうと思いますし、もう一言付け加えさせていただきますと、環境問題の時に、今はもう皆行政任せです。今日でも多分、お手洗いにいかれたと思いますけれども、水に流せば自分は何もしなくてもきれいにしてくれているわ

けです。そういうことが、やはり環境問題の意識を下げているのではないか、自分が自分の責任できれいにするとか、処理をするような形に変えていけば、やっぱりもっと自分のものとして環境問題を捉えられるのではないかなと、私は思うのですけれども。そういう意味で、この 86%にしても、高い方がいいのか、その辺りが、今までは肥やしに出来たところが全部水に流されて、川に流されるというのが、本当にいいのかと言うと、この辺りの議論も本当は、きちんとしておかないといけないかなと思うのです。

ちょっと話が脱線しましたがけれど、少し、この書きぶりも検討させていただいて、また、この 86%を柳田さんはあえて表に出さなくてもいいのではないかなというのもありましたし。これは事務局に持ち帰っていただいて、検討していただければと思います。

【太田委員】

ちょっとよろしいですか。この、公共下水道に対して、今後まだ整備をする予定はあるのですか。この河内長野市としては。

【藤委員】

先ほど言いました狭山処理場へ流れているのが 40%なのです、まだ。今しなければいけないのは、各団地まで本管をつなぐという、各団地に終末処理場というのがありますから、そこまで管をつなぐことによって、その処理場をなくそうと、そういう工事が、まだ、長野の石川から南、要するに三日市、加賀田、そして南花台、美加の台や清見台の団地の方にまだ残っていますので、それを取っていこうという行為が残るのです。そうすると、ほぼ大体この率になります。あとはどうするかというと、石見川であるとか、もしくは小深、天見の方につきましては、先ほどちょっと部長もおっしゃっている、個人の設置型の合併浄化槽でいこうかと、それが今言っている川にそこで戻りますから、下水としては今、そういう所の三日市方面の面的整備と、各団地への管の接続行為、そして西除川の団地と天野山の方向、あそこの下水の面的整備がまだ残っているのです。

【太田委員】

そうしますと、これを例えば、つなげたとしても、この水洗化率については変わらないわけですね。要するに、個別でやっているやつを、あえて公共下水道に持ってくるか持ってこないかということで、経緯としては、今後、恐らく、今さっき久先生がおっしゃっていたように、個別にやっていけば性能もこのごろ良くなって、恐らく大規模な投資をする必要はないということであるならば、あえて公共下水道とか水洗化率というものを、ここで、「もう整備されているよ」と、既に 86%あると。もちろん、100%にした方がいいということはあるのでしょうけれども、あえてここで公共下水道が云々という文章を書き加える理由は、先ほど久さんがおっしゃられましたけれども、反対側から私が聞いていますと、色々経過があつてこういう文章になったというお話ですけれども、

あえて公共下水道ということで、今後市の方が考えていなくてもいいのじゃないかと思うのですが、その辺はどうなのでしょう。

【久部会長】

これは多分、別途、公共事業評価にかかっていますよね、1回。かかっていませんか、まだ。

【藤委員】

かかりました。

【久部会長】

かかりましたよね。そして、ゴーサインというか、継続でという話になったわけですよ。ちょっと専門的になりますけれども、10年以上、今後もかかる事業の場合は、今、国土交通省の仕組みが変わって、必ず公共事業評価をしないとイケない。「このまま継続しますか、あるいはムダだからやめますか」と、どちらかという評価にかけられるのです。公共下水道の場合は、今後10年以上かかりますから、必ずかかります。私もいくつかの市で、公共事業の下水道の評価をさせてもらったのですが、非常に難しい問題になりまして、というのは、今までかなり莫大な投資をしてきているわけです。ここでやめるという判断もあるのですが、やめてしまうと今までの投資がかなり無駄になってくることがあるのです。今後、それにつないだ方が、トータルコストとして安いのか、それか、もう、この公共下水道を使わずに、断念してコミュニティ下水道とか合併浄化槽に切り替えた方が安いのか。今後の投資だけではなくて、今までの投資も含めてトータルに考えた時に、どちらがメリットがあるかということの評価をさせてもらうわけなのです。その場合は、ほぼ、公共下水道の今の計画で行った方がトータルコストとしてはいいでしょうという評価が出てきて、それで継続OKという判断があるわけです。河内長野も多分、その手続きを踏んで、今の計画をそのまま続けていった方がいいのではないのでしょうかという評価になっていると思うのです。ただ、私はこの前も茨木で評価させてもらった時に、下水道部長には個人的に言ったのですが、50年後にもう一度公共下水道をやり替えだと言われたときに、莫大な費用がかかるわけですから、「その時に継続しますかと聞かれた時に、私はOKとは言わないかもしれませんが」と。今はある程度管が整備されて、あと少しなのだということだからOKを出しましたけども、今度大々的にやり替える時は、ひょっとするとまた違う選択肢があるし、また別の評価になりますねという話をさせてもらったのですが、今、そういう意味では、専門家が判断した時に、今後、今のままの状況で継続した方がメリットが高いという判断の中で、今の40%を100%に近づける見直しを行ってくという、そういうストーリーになっているかと思うのですが。

おっしゃるように、先ほどの常石さんのお話の中で、「市民のサイドでは」というお話がありましたけれども、この水洗も市民サイドでは、別に何につながってしようと、自分の家庭が水洗になればいいわけで、その辺りで 2 つの判断が必要かなという気がするのですけれども。ここだと、その 2 つが重なってしまっているから、よくわからないのですね。だから、大きな目を見た時に、「公共下水道はまだまだ必要だよ」という書きぶりと、個人の生活レベルから言うと、「86%が水洗化しているのだから、そこそこのレベルに行っていないませんか」という、そのレベルの違う話がくっついてしまっているがために、誤解を招くのですね。

【太田委員】

今後新しく家を建てるとしたら、ほぼ、今の形は別にして公共下水道につなぐか個別にやるかにしてもですね、ほぼ水洗になるのは間違いないと思うのですね。そういう所でないと家は建てられないと思うのです。そういうことをあえて言うと、この文章だけ見ていますと、共通しているかなと言う気もしないではないですね。

【久部会長】

少しこの辺りをわかりやすく、実態を反映するような言葉遣いに変えていただければと思います。他に書きぶりでいかがでしょう。

【神田委員】

すみません、2点ほど。6ページの「地方分権の進展と財政悪化」という書きぶりなのですけれども、まあ、構想なので、あまり直近のこととか書くというのは、10年後経った時に、税制の流れに、違う流れがあるかも知れませんが、少なくとも地方分権ということに触れる時に、やはり税財源の移譲ですね、その部分の記述がないとおかしいのではないかということとですね、もう1点は、「高度情報化社会の進展」という7ページのところなのですけれども、ちょっと僕はよくわからないのですが、2つ目の「情報化社会が進展していった、行政と住民の情報、距離の関係に大きな変化をもたらしています」という、この「大きな変化」というのが、色々な人が何のことを言っているのかというのが、ちょっとわからないのではないかなということなので、その部分はちょっとわかりやすく書くべきではないかということと、あと、その下でデジタルデバイドの話とか色々な、いわゆる情報化社会の影の部分を書いておられるのですけれども、もちろんそれはそれで書いておくべきだと思うのですが、一方で、高度情報化社会の目的としては、ハンディキャップの克服ということがあると思うのです。だから、例えば、言葉がしゃべれない人でも、パソコンなり何なりを使って伝達が出来るとか、色々なハンディキャップを持っている人が、ITを使うことによって、自分のハンディキャップを補うという役割がありますので、そういう部分というのは、最初のところにちょっと認識として

は書いておく方がいいのではないかと。

【久部会長】

ありがとうございます。これは承っておけばいいというお話でしょうね。

ここまで書くかどうかというのはわからないのですが、今、地方分権の中で、先ほど神田委員さんがおっしゃったような、権限移譲をちょっと国の方が渋っているところがあるので、「くれよ」というぐらいの書きぶりでも、個人的にはいいのかなという気がするのですが、やはり、ただ権限だけを下ろすのではなくて、「ちゃんとそれが実現出来るような財源も確保するという方向をきちんと書いておけ」というような心強いお話なので、是非とも反映していただきたいと思いますけれども。

それから、あと、ITのところは少し例示をしますかね。このような変化が起こっているのだということを書かないと、まだ具体的には実感がないだろうなと思うのですが。木之下さんとか常石さんのように、市民活動をやっている方は、ITの進化の恩恵というのは非常にあるなと思っていて、1つ、非常に些細なことですが、起こっているのは、結局メールを使えば今までの通信費が非常に安くなるわけです。50円切手を貼って100人に配っていたものが、たった10円ぐらいで100人に情報が送れてしまう。これが実は、市民活動を非常に活発化させているという話があったり、あるいは、市民と市民が情報交換する道具というのがなかなかなかったのです。あるグループとあるグループが情報交換して、くっついていくというのが、なかなか今までは難しかったのだけれども、ホームページとかメールが出来たお陰で、いとも簡単に色々なグループがくっついて行って、市民活動が元気になるとか、そのような変化が多分、市民同士の中で起こっているし、それが市民活動の活発化で社会を変えていくというのが、1つの典型だと思うのです。その辺りを少し補正していただけたらと思うのですが、

それから、3つ目、これは確かにおっしゃるように、ハンディキャップを持たれていた方の、ハンディキャップの克服という意味では、このIT技術というのは非常に進化をしていますね。この辺りをより具体的に読まれた方に強調していくことが言えるかと思えます。逆に、このデジタルデバイドを出さないように、特に、これは言い過ぎかどうかはわかりませんが、ハンディキャップを持っていらっしゃる方には、特にIT技術を安価に使えるような形で行政指導をしていくというのが必要なことではないかなと思うのです。生活保障ですよ。もう、ITが使えるかどうかというのが生活保障のレベルまで来たのだという、その時代に入ってきたのではないかなと思うのですが、具体的にちょっと脱線しますが、ニューヨークは生活保護を受けていらっしゃる方に、無料でパソコンが配られているのです、ニューヨーク市はですね。というのは、パソコンがないと生活に困るでしょうということなのです。日本では、まだ贅沢だというような雰囲気がありますけれども、日常生活を送る時に、パソコンを持っておかないと困ることが多くなりましたよね。だから、パソコンを買えない人には、市からパソコンを差し

上げましょうという時代に、ニューヨークなんかはもうなっているということなのですから、けれども。

他、いかがでしょうか。

【田中（喜）委員】

すみません。今ですね、6ページの4つ目ですかね、「財政悪化」というところで、その真ん中辺りで、「本市はこれまで、2度にわたる財政再建団体の経験を教訓に『行革先進都市』として堅実な財政運営を行うとともに、独自の条例の制定など、自立したまちづくりを行ってきました」と。しかし、その後、なのですよ。「しかし、長引く景気の低迷により本市の税収は減少している」のだと。これでは一生懸命やっていたのに、景気の低迷だけで減少しているのではないかというようなことで、それは当たり前のことで、だからその辺に、「景気の低迷や、によって税収は減少していますのやろう」ということをもう少し加えていただければ、あまりにも景気の低迷だけでなっているというようなことで、それは当たり前のことだなというイメージを受けるのですが、その辺はちょっと、文章の追加というのはしていただきたいなと思うのですけれども。

【久部会長】

具体的には というのはご提案はありますか。

【田中（喜）委員】

難しいですけどもね。急には。今ちょっと、意見が出たので、読んでみたときに感じた部分なのですけども。

【久部会長】

事務局ではどうですか。個人の所得が落ちてくるというのも不景気ですからね。あとは人口が減ることですかね。

【藤助役】

高齢化。

【中野企画グループ主幹】

やはり一番大きな原因としましては、景気の低迷、個人の所得の減少、税収の減少がございますので、それらを統括した表現としまして、こういう景気の低迷という形で表現させていただいてはいるのですけれども。

【久部会長】

先ほど藤さんの方でおっしゃられた高齢化ですから、税金を払っていただける世代が減ってきているということでしょうね。少し補強出来るのであれば、他の要因も。

【田中（喜）委員】

そうでないと、市の方は今まで一生懸命やっていただいたことを上に書いていただいているのに、あまりにも、その下の短い文章でボンと消えてしまうのかなと思いますので。

【久部会長】

ちょっと乱暴な言い方で、語弊のある言い方になるかも知れないのですけれども、40代後半から50代ぐらいの人が増えていただくのが、一番市にとっていいのです。つまり、税金を払ってサービスのいらぬ方ということで、お若い方は子どもさんの保育とか、色々な形でお金を税から持ち出さないといけないので、そこそこそれが終わって、年収も高い方に住んでいただくのが一番、市役所にとってはいいと。

他はいかがでしょうか。それでは、一応今頂いたご意見を、また、事務局サイドで検討させていただいて、他の部会とのすり合わせもございますので、出来るだけ反映をした形で修正をさせていただきたいと思います。

あと15分くらい時間がありますので、先ほど常石さんの方から、1つ問題というか、もう少し深めたいなというお話がございました。市民同士のサービスの提供、その辺りでどういう仕組みが、今後市の中で考えられるかなというような話でした。あと、他の観点でも結構です。もう少し、構想レベルで書かれていたことを、より具体的に展開する時に、こんなことがあったらいいなという話をご意見としてありましたら、お聞かせいただきたいと思いますが。

常石さんと一緒にやらせていただいて、もう1つの協働の懇談会の重要なテーマとして、この辺りは、市民同士のサービスをどのような形でソサエティに広めていくかというようなことなのですから。

【常石委員】

その論点が、一番、優先順位を考える手立てとしては、まだまだこれは下の方から、下と言うと言い方が悪いので、後なるかも知れないのですが、ただ、今までは、市と市民という捉え方では、色々な話し合いがなされてきたのだけれども、住民と住民というところは、まだまだ論議が進んでいないので、最後までいいですので、この辺りがもう少し出来たらという風に感じたので、発言させてもらいました。

【久部会長】

実は、それに関連したところが13ページにございますので、新たに付け加えていただい

た話だと思うのですが、13ページの(5)「自立協働都市」の2番目の文章なのですけれども、「行政はコーディネーターとしての」と書いてございますでしょう。ですから、これは非常に前向きというか、今までになかった書きぶりだと思うのですけれども、「行政が色々なサービスを提供するだけではないのですよ」、「市民同士がつながっていく、あるいは、市民の活動が活発になるお手伝いを行政がします」ということで、このコーディネーターという言葉が出てきて、そこの文章の最後に、「協働のまちづくりのためのルールや仕組みを整えます」と書いていただいていますので、これは基本計画で是非とも何か具体的なものを提示しないとイケないということになっていると思うのですけれども。これはまだオフィシャルではないのですけれども、今ご一緒させていただいている協働の懇談会が、そろそろ方向性を出さないといけないということで、事務局の皆さんとお話をしている中では、是非とも近々に市民活動センターを、やはり河内長野でも整備をして、皆が集って情報交換をしたり、あるいは、活動の拠点になるような、そういう場所づくり、拠点づくりはこの数年間の間にやりたいなという話のレベルでは出ていますので、多分、基本計画の1つの柱として、それは書いていただけるのではないかなという気がしているのですけれども。いかがでしょうか。

【田中（晃）副部長】

先ほどの市民活動センターの話なのですけれども、昨日ミニシンポジウムがあって、NPOさんが集って話し合った中で、北摂地域のNPOの方、市民活動センターの方に、それぞれ来ていただいてお話を伺ったのですけれども、その人たちというのは、中間支援組織というような位置付けなのですが、中間支援組織って、非常にわかりにくいですよ。それをおっしゃっていました。結局、行政の中でも縦割りなのですけれども、市民の組織もそれぞれ縦割りになっていて、例えば、社会福祉協議会とかで働くボランティアさんとか、自治会さんとか、NPOでもそれぞれのテーマによって、自分達の活動が精一杯になっているというような状況なので、そのNPOさん同士のつながりをつくっていくとか、あるいは、自治会さんとか、社会福祉協議会のボランティアさんとか、全く現場の違うような人たちをつないでいくというような、そのような役割を担いたいとか、情報とか、場の提供とかいうようなことをずっとおっしゃっているのです。そういう活動、市民活動センターというのが活発になっていけばいいなという話があったので、少しそういうところで参考にいただければなと思っています。

【久部会長】

私も色々なところで市民活動センターをお手伝いしていますけれども、なかなか、器が出来てもそれをどう運営するのかというのは、かなり大変なところがございます。少し長広舌させていただきますと、私事になりますけれども、この1月に、川西の市民活動センターを運営されていた市民事務局の方がNPO化するということで、ある意味自

立をしていくのですね。そこで、ちょっと、「理事長をやってくれないか」とお願いされて、理事長になってしまったというと怒られますが、なったのですけれども、その時に、理事長だから運営の全体像を一緒に組み立てていかないといけないということで、今まで、一体事務局に対して、どれほどのお金が出ていたのですかと聞いたら、10万円の助成金だと言うのです。「10万円でこれだけの処理をやってはったんですか」と私は驚いたのです。とても頑張っておられたのに、実は10万円。違う言い方をすると、ほとんど手弁当でやっておられたということです。「これはちょっと、川西市に言わないといけないのと違いますか」と言ったのです。箕面では700~800万円の助成金というか、委託費用が出ているのです。それで、ちゃんと事務員さんの給料も出せているのです。この前、堺の状況調査をしました、堺が480万円でしょうか、それでも安い。2人の常勤職員さんが面倒を見るのですから、480万円ではご飯が食べられませんよね。それでも安いと言っていたのに、川西市は10万円だということで、「これはちょっと、市と掛け合わないといけませんね」という話をしたのですけれども、財政難の折、どれだけ付けていただけるかということがあって、そうなるのですけれども、やはり必要なところにはお金を付けていただかないといけないし、本来は市がやるべき仕事を、市民が肩代わりしているという認識があれば、そこにはやはり、委託費用というのも発生しますし、それに対しては、ちゃんと給料をもらえるような、専属の職員さんがいないと、片手間ではなかなか出来ないのじゃないかという話をされていたのですけれども。これも脱線になりますが、横谷さんはそういう仕事をしたいということで捜しているのだけれども、なかなか見つからずに、遠い箕面まで行って働いておられるのですけれども、多分、市民活動センターでちゃんと飯が食えるようになれば、河内長野で活躍してくれる技術も持っているの、いい人材だと思うのですが、なかなかそういう意味では、まだまだそこまで行っていないというのが実態だと思うのですが。この10年間で、河内長野の市役所はどこまでそれを支援してくれるのだろうかというところが、私も一緒に頑張らせてもらわないといけない話かなと思うのですね。

【木之下委員】

今のお話を聞いて、私も今、色々な形で、ボランティアという、その言葉もあれなのですけれども、ボランティアでということで、色々市の方から呼びかけがあって、色々な活動に参加しているのです。やはり、そうやっていく中で、今もお金のことがありましたけれど、ほとんど何か1つのことをやりあげていこうと思うと、やはり、「やろう」という気で皆集るわけですから、手弁当で、勉強も全て、市内に行くのもどこへ行くのも、情報があるといったら、そういうところへ行くのも全部手弁当でやってきます。その中でも、1回だけ、ここにはまだ資料としては出ないのですけれども、協働というところで、テーマにする時に、お金というものをどういう風に捉えていくかということで、私が今まで関わってきた中で、補助金とか、それから委託料、最近委託料になってきてい

と思うのですけれども、私の関わっている消費者問題のところなどでも、ほとんど行政がやるべきことだろうという、市民啓発という部分を、委託という形で委託料をいただいてやるわけですが、でも、そこに集って来る皆、市民の使う時間ですね、そういうものを、もし、主婦のお金をどう計算するかということと同じで、使っている時間というのはすごい時間を使ってでないと、色々な活動は成り立たっていかないし、出来ないわけなのですけれども、でも、そういうようなところに、まだ委託料をいただいてやっている分については、日当をもらっているので頑張らなくてはいということで、すごい時間を費やして色々なことをやっているのですけれども、それをどう評価しているのか、評価出来ているのかという部分が、これから協働というものをやっていくのに、すごく大事だと思うのです。だから、市の職員の方々はもちろん、お勤めとしてやっているわけなのですけれども、市民活動というのはそうではなくて、自分の意志とか生きがいとか、色々な意味で何かを感じた人たちが集って、色々なことをやって活動していくわけなのです。だから、それに対して予算をどう動かしていくのか、今、所属している色々なグループ、団体の補助金とか委託料等で、市民との関わりというのは、全部の、今基本計画的な色々なものがありますね、それぞれの各部署にね。それで策定していると、私は環境の基本計画にそういうことに関わったのですけれども、その部分でも市民が関わることというのをすごくうたっています、どこでもうたっています、「一緒に協働しましょう」と、「協働」という言葉ではないのですけれど、「パートナーシップで一緒にやりましょう」と、「市民と一緒にやらなくちゃ」ということを全部、どれを集めても全部に入っているのですけれども、それにかけているお金ですね、予算を一度全部洗い出していただいて、これをやっていく中でもどれを基本的にやるのかということも、そういうことも必要ではないかと思うのです。そうすると、今のお金の使われ方というのが一度見直しということがぜひ必要で、そういったところで、また新たに、今言っている財政難とか市民活動センターとか、そういうところが出来れば、そういうような予算もきっちりと、審議、検討して、行政も皆入って、議員さんも入って、そしてそれをどう使っていったらいいのか、市民との協働をする時にね、そういうようなことをやっていく部分も是非必要ではないかと思うので、だから、今既存の、色々な私達も消費者団体、環境グループ、色々入っていますけれども、そういうところで、今まで「これでいいな」ということでやってきた、そういうような予算の配分とかいう部分も、市民との協働を確立していく上では、是非 1 回洗い直しをして、そして、それをどう分けて行って、どうしたら一番効率良くお金が使われるのかということが必要ではないかなと思うので、だから、是非そういう部分もこの 10 年の間に、この財政というところにもう入っていますのでね、この部会のところで、そういうようなことを是非、どこかで出来るような形にさせていただけたらなあと思っております。それが必要ではないかと。今、お金ということが出たので、私、ちょっとしたら、財政のところでは言おうかなと思っていたのですけれども。

【久部会長】

もう少し整理をさせていただくと、財政全般ではなくて、特に協働に関わっている部分だけを、一度全体的に取り出してみ、それを行政だけではなくて、協働に関わっていらっしゃる市民の方々も入って評価をしてみて、今後の一番いい使い方というのを、お互いに一緒に考えていけるような、そのような仕組みを是非とも早くつくっていかうというようなお話ですよ。

【木之下委員】

出来れば、それによって、やはり見えないとなかなか動けないので、お金の全体を見えるような形にすることによって、税金がどう活かされているかというところにも来ると思うので、是非その辺りが出来たらいいなと。今回ここに、第4次のところに入れてもらえればもっと動きやすく、お金の流れもわかりやすくなるのではないかなと。

あまり必要でないような、景品を配布するときとかあるのです。だんだんとなくなりましたけれどもね、財政が厳しいということで。でも、こんなのを配布するのに1日皆が集って、これをやっているものすごくムダではないかという部分もあるのです。そういうのも含めて。

【久部会長】

これは違う話になりますけれども、私も現場でお手伝いをしていて思うのは、「これ来たら何をくれるんや」という市民もいることは確かなのです。だから粗品が出たりというのがあるのですけれども、やはり、その辺りは行政だけではなくて、市民サイドの意識も変わっていただく、両輪だと思っておりますけれども。

【太田委員】

その件で私も一言申し上げたいなと思います。私も今、文化財ボランティアというのを、市内で50周年も踏まえて色々やっているのです。皆さん、今ずっと集っている人を見ますと、色々な小さい集まりが出来ているのです。皆さんは、本当に志は、「色々やってみよう」ということで、当初集ってくるのです。例えば、昨日、私も滝畑の資料館などに行って、まあ、ずっと行っているわけなのですけれども、場所が場所だけに、皆さん来たいと思っても足がないとやはり来られないということで。予算の件に引っかかってくるのかも知れませんが、今現在、ボランティアというのは全く無償ということが前提になっているのです。ところが、皆さん来るとなると、足のない人はバスで来る、あるいは、乗用車で来るということになって、まずそこで、時間だけではなくて、色々な経費が発生するのです。ボランティアというのは本来、本人の身体というか、仕事自身は無償ということが前提になっていると思うのです。やはり、色々そういう活動

を続けていくためには、問題が出てきているのが現実なのです。

それから、また、私も、シルバーの方でも、シルバーは本来、有償で云々ということなのですが、実際に向こうで会をつくってやっていっていると、やはりこれも、本来、シルバーの方はそういう形で、こちらのボランティアとは全く趣旨が異なりますけれども、やはり、私が去年、実際に向こうの方にも関係の仕事をしているのが、30日くらいあるのです。シルバーの方は30日、ボランティアの方もやはり30日くらいあるのです。ボランティアの方は、これは無償ということになのですけれども、今の話として、シルバーの方の話というのは、全くこれは本来的には、ボランティアとは異なるといえば異なるのですが、やっている仕事は同じようなボランティアをやっているのです、向こうでね。まあ、話を色々言っておりますとおかしくなりますけれども、今考えておられるボランティアというものは本来、全く無償だという、その「無償」という意味付けが、もう少し考えていかないと、やはり来たいという皆さんの思いはあっても、現実的にだんだん人間はね、参加する人が減っていっているのです。ここが一応、最初の話になるのかも知れませんが、やはり集って、最初は本来自然発生的なものがどんどん広がっていったボランティアということなのでしょうけれども、やはり、それを維持していくためには何らかの支度も必要ではないかなと。ここが抜けてしまいますと、だんだん組織としては広がりがなくなっていくのではないかと思うのです。これも今後、この中で考えられるかどうか知りませんが、ひとつ考えていただけないかと。大きな問題ではないかと思っております。

あまり、「ボランティアは無償だ、無償だ」と言うと、何が無償なのかどこまでの点でそうなったのかということ、1回考えてみたいと思っておりますし、これから、やはり市の方もだんだん、例えば、今は具体的に言いましたけれども、滝畑の資料館にしても、あそこで管理をしている人がだんだん減っていっている。そうすると、本来はシルバーかボランティアに、「もう任せますよ」と。「その代わり、それだけの分はこれだけの予算をつけますよ」という形であれば、市としても将来的に、そういう施設についても、コストの削減が出来るし、そういう希望をする人も結構いらっしゃると思うのです。何もそんなにお金をたくさん払うというのではなくて、せめて「足代くらいは見ますよ」というくらいであれば、かなりそういう人はいらっしゃると思うのです。現実には、本当に時間を割いて、1日やっているけれども、まあまあ「原則としてそういうことですよ」と、今、言っていますのでね、これからひとつ考えていただきたいなと。そういうものを基本的に何か活かされていけば、いいのではないかと思います。

【久部会長】

芝本さんの方も地域のためにずっと今までやってこられました、何かご意見はありますか。

【芝本委員】

ボランティアではなくて、私は健全育成をやっていますけれど、本当はボランティアがいいんですけれどもね。市の方から委託金をいただいていますので、皆さんボランティアと言われてはいますが、本当はボランティアではなくて。年々そのお金が減っていくのです。減っていく割には、「ああせい」、「こうせい」と。いかにお金もうけするのが、お金もうけとはいきませんが、いかにもらうかというのをね、だからゆめ基金とか、そういうようなものに申し込んでやっていますけれど、結局お金は、こないだも話が会議でやっておられましたけれども、半分になりますよ、何年か後にはね。今はとりあえず 31 万、月でね、年に 1 校区が。来年から 28 万か。これはちょっとわかりませんが、他に 7 校区ありまして、私のところ、長野を入れまして、長野だけは自治会からお金をもらってないのです。他の 6 校区は自治会からお金をもらっているのです、全部ね。町会金かな。うちが一番貧乏というか。そういうことで、たまたま長野におりますので、一番しっかりしてとか言われていますのでね。

【久部会長】

多分、これは常石さんと一緒にやらせていただいている協働の懇談会で、きちんとルール化をしていかないといけないと思うのですけれども、その辺りの市民同士の関係とか、あるいは、市民と行政の関係で、誰がどういう形でお金を渡すのかという話を、今までは馴れ合いで来ている部分が多かったと思うのです。だから、その辺を、これから数年かけてきちんと考え方を整理し、ルール化すべきところはルール化しないといけないと思うのです。必ずしも税金を投入するだけではない、やはり市民同士で支えあう部分もあるだろうし、その辺りの整理を、今後数時間、一緒にやらせていただく、そういう時期に来たのかなと思いますし、基本計画には是非ともそういう市民との関係のルールづくりをきちんと検討する、あるいはルール化までいくということが、基本的にほしいなと思います。

いかがでしょう。もういい時間になったのですけれども、白木さんとかも。

【白木委員】

私は、ちょっと話がそれるかもしれないのですけれども、市民交流センターですか、をつくられるという話なのですけれども、今までの公民館のような建物をポンとつくりたくても、私達はあまりにも、そこに行きたいとかは思わないのです。この前、横谷さんもおっしゃられていて、ここにも書いてるのですけれども、公共施設をつくる時に、デザインとか、地域の人に愛されるような場所にしてほしいと、私はすごくそういうことを思っていて、行きたい場所であったら、用もないのにちょっとフラッと行ってみたいとか、そういう場所があったらいいなというのがすごく思うことと、あと、天野酒の蔵開きの時に少し見せてもらったのですが、すごく街並みとかもきれいにされていて、

他の市の方とか、そこを見せたらとてもいいところだなと思ったのですけれども、多分、全然知られてなくて、ちょっと見せ方が下手なのではないのかなという風を感じたのです。もっと人をあそこに呼べるようなものを持っているのに、そこをアピール出来るようなものが全然ないというか、ちょっと街並みに合わせた、お茶を飲めるようなところもあったら、多分、人もその時はたくさんいたので、入るような感じがするのですけれど、そういう見せ方が下手なのではないのかなということと、私が他に思うのは、ラブリーホール。立派なホールがあるのですけれども、大阪の知り合いとかもラブリーホールって言ったら結構知っている人がいるのです。私はとてもびっくりして、「河内長野のあのホールを知ってるんだ」と思って、びっくりしたのですけれど。まあ、その人がラブリーホールに来た時に、その人はあそこに行って、駅から歩いてすぐ帰ってしまうんだらうなと思ったのです。なぜかと言うと、私も行く時には電車に乗って行って、あそこを通るのですけれど、何か道を通る時も歩きにくいですし、ちょっと寄っていこうかなというお店もないのです。そういう、何というか、この前、歩く河内長野、河内長野を歩くまちにしたいという案があった時に、「歩くだけでいいのか」と私が言った時に、歩くだけではなくて、歩きに来た人がそこで産物とかを買って、そういうものを落としてもらおうという考えもあるんですというふうに言われていたのですけれども、そういうものは、もっと頑張ったら河内長野で出来ると思うのに、そういうことを全然してないのではないかと思います。他の市から遊びに来た人にお金を落としていってほしいのだったら、それに対してもっと、やったら出来るような、河内長野のこういう環境とかそういうものをもっとアピールしたら、もっと落としてもらえるようなものがあると思うのですけれど、そういうことが、河内長野では全然ないのではないかなと思うのが常日頃のことで、もっと建物とかをもしつくるなら、私としてはもう少し、ただ、ポンと箱が出来るのではなくて、人が行きたいと思うような場所にしていきたいなというのが私の希望です。

【久部会長】

もう少し具体的に言えば、そういう白木さんもちゃんと参加をして、内容が決められるような、そんな計画づくりをしたいということですね。

【白木委員】

はい。私はこういう場所に来て、「ああ、色々な方が、こういうことをしてるのだな」と初めてわかったことがあって、今まではあまり関心のなかったことが、関心を持ってたりしたのです。それは多分、知ろうとしていないというか、そういうきっかけがなかったと思って、もし、私みたいにきっかけをもらえる人がいたら、もっと色々したいという人は、多分、いっぱいいると思うのです。でも、そういうきっかけがなくて、そのきっかけづくりの場所というのが、多分ないと思うのです。

【久部会長】

具体的に先ほど少しお話しさせていただきました、堺と、それから八尾では、1年間かけて、市民活動センターをどうするという話を、設計も含めて市民の皆さんと一緒につくりましたので、それでもそこに関わっていない人は、「私の思いが入ってない」とか、「行きにくい」とかおっしゃるのですけれども、やはり、関わった人はそれなりに自分の満足のあるところになっているのです。その辺りが難しいのですけれども、少なくとも計画にたくさんの方が参加出来るような、そういう仕掛け、仕組みをもっとやっていったらどうかと思うのですけれども。

【常石委員】

そろそろ時間ですがすみません。今のお話、市民活動センターのことについては、本当に心を痛めながら今やっているところなのです。その、「行きたい場所」という風に言われたので、その点が非常に心に引っかかるのです。「行きたい場所」というのは、まず場所、地域性からすると、そういうことを望むのは、今は非常に難しい段階なのです。それは、「駅前がいい」とか、「どこがいい」とかいうのはあるのだけれども、今の河内長野の情勢から言うと、とてもそんなところは、市民の活動出来る場所としてはないのです。もちろん、新しいものをつくることは出来ないし。だから、今の私の立場から言うと、是非お願いしたいのは、先ほど久先生も言われたことに関連しているのですけれども、私はやはり内容で勝負したらいいと思っているのです。場所の問題、立地条件はもちろん大事だけれども、やはり内容をとっていかないと、いくらいいところでしてもダメだと思うので、内容を考えることが。

【白木委員】

場所を言っているのではなくて、私も、場所が悪くても、多分行きたい所であれば行くと思うのです。

【常石委員】

気持ちはね。

【久部会長】

雰囲気とか内容ですね。

【常石委員】

はい。よくわかりました。それでしたら、よくわかります。是非、そういう中身を考えていけるところを、一緒に関わってもらえたら、それ以上ありがたいことはありません。

ん。そう思います。

【久部会長】

立地はなかなか難しいですね。どこかが立てばどこかが立たないですからね。

【常石委員】

難しいです。だから、どんな掘っ立て小屋でもいいからほしいと言っているのですが、やはり、そもいかないので。

【久部会長】

先ほど、太田さんが滝畑の話をされましたけれども、滝畑の人からすると、「こんな不便なところと言われるけれども、その不便なところにわし達は住んでいて、そこからわざわざこの不便な駅前まで来ているんや」と、そういう逆の言い方も出来るのではないかと思うのですけれども。だから、どこにつくっても、やはり不便な人はいるので、立地だけで解決するというのは難しいですよ。

【神田委員】

すみません。この13ページの「自立協働都市」のところで、3つめのところで「引き続き、厳しい中での自己改革を進め、行政改革、財政の健全化に取り組みます」と、こう書いてあるのです。まさに、最初のこの総合計画の理念として、量的な拡大よりも質的な充実と、そういうところで展開していきますよと。それは、今後10年見たときに、少子高齢化がどんどん進んでいくという中で、非常に言いにくいことなのですけれども、施設についても、今の話を聞いていても、やはり、今までは、例えば小学校については、7つあったけれども、だんだん子供の人口が減ってくるよね、幼稚園もそうですよねと。そうすると、それをまさに他に展開していくことも、当然考えないといけない。それをやはりどこかに、自立協働都市というところに、どこかに書いておかないと、そういう理念とは異なるというか、いいことは皆、新しいことはどんどんやりたいと。それはそうなのだけれども、やはり、今のまま放っておいて新しいものをつくるのではなくて、その中で、あるいは場合によってはニーズが少なくなっていけば、2つを1つにしないといけないとかということもあるでしょうから、そういう部分をどこかに書いておかないといけないと思います。

【久部会長】

先ほど白木さんが言っていた天野酒の話も同じだと思うのですけれども、民間施設も含めて地域のストックがいっぱいあると思うのです。「それを有効活用せよ」ということだと思うのです。新たなものを造るだけではなくて、そういう地域のストックを

もう一度見直して、それが有効活用を図られているかどうかということの評価して、有効活用を図れるような、そのようなシステムを構築しますという話だと思うのです。これは、構想レベルでやはり書いておかないといけない話かなと思いますので、少しこの辺りの5番を重視させていただけたらと思います。

あと、村上さん。

【村上委員】

私は、「市民から市民にサービスを提供する仕組み」が11ページにあるのですが、その市民さん自体も何をしているかわからない状態の人も多いと思うので、ここをもっと、河内長野市民の方全員にわかるように情報をオープンにしてもらいたいなと思います。

【久部会長】

たくさんの情報をオープンにするということと、もう1つは、ここに行けば、色々な情報があるのだということをつくるということでしょうね。あちこち調べるのは大変ですから。

【村上委員】

私は、ここの場所に来て初めて、そういう市のことに参加してるんですけども、やはり、1回来て、まだまだ考えることは甘いんですけども、色々なことをこれからもう少し時間をかけて勉強したいなという気持ちにはすごくなっているのです。今まで全くそういうのに縁がなくて、全く知らなかったんですけど、これからもっと関わっていきたいなと思っています。

【久部会長】

ありがとうございます。これは次回の部会に投げ掛けたいなと私は思っていたのですが、審議会が終わったらこのメンバーさんはバラバラになってしまうのですよね。せっかく応援団になって下さる方が増えたわけですから、この皆さんのお力を、いかに計画して、行政に関わっていただけるかということ、やはり、事務局側も考えていただきたいし、せっかく一緒につくった総合計画ですから、それをずっと皆と一緒に実現をさせていくような仕掛けづくりを、是非とも考えていく必要があるのではないかなというのがあって、その機会さえあれば、村上さんも参加をしてくれると思うので、それはまた次回、重要なテーマとしてお話しをさせていただけたらと思うのですが、横谷さん、何か言いたいことはないですか。

【横谷委員】

ストックを活かしていくということについては、とても興味がありますし、今、仕事でやっている重要なテーマなので、箕面でやっていることで学んだことがたくさんありますので、それを河内長野に還元していきたいなと思っています。

【久部会長】

ありがとうございます。ちょっと、色々なお話を聞いてしまいましたので、時間が回ってしまいましたが、あと何か言い残したことはございますでしょうか。よろしゅうございますか。また、次回も部会で分かれてやりますので、多分、今日、まだ突っ込めなかったところは、次回、是非とも色々なご意見をいただければと思います。

それでは、とりあえず以上で議事は終わらせていただきたいと思います。次回の部会の日程を決めておきたいと思います。

(日程調整のやり取り)

それでは、11日の10時からとさせていただきます。

少し長くなりましたけれども、閉会させていただきます。